

「平成32年度以降の国立大学の入学者選抜」に係るアンケート調査

調査の目的・概要

調査の目的：高大接続システム改革会議「最終報告」を受けて、「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」導入に伴う平成32年度以降の国立大学の入学者選抜における新たなルールや多面的・総合的選抜の在り方等について、今後の国大協入試委員会における検討に資するため、各大学にアンケート調査を実施。

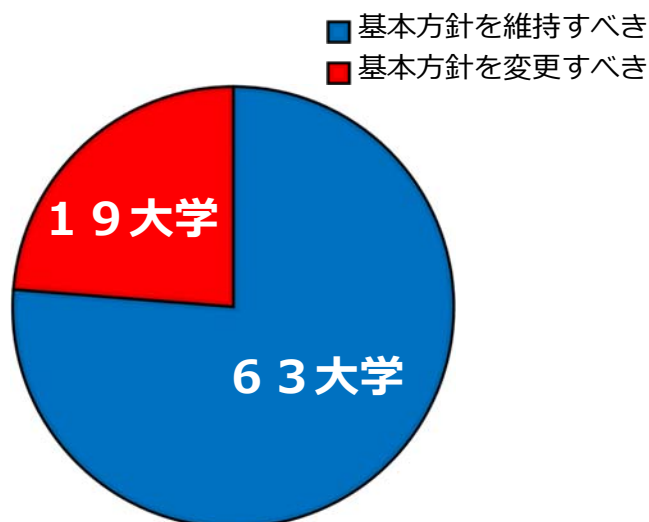
調査期間：平成28年6月22日～7月11日

- 調査内容：**
1. 国立大学協会の基本方針について
 2. 「学力の3要素」を多面的・総合的に評価する選抜の在り方について
 - (1) 解答の自由度の高い記述式問題や小論文等を含めた作問の改善について
 - (2) 「調査書」や「学修計画書」などの資料の積極的な活用の在り方について
 3. その他自由意見

有効回答：82大学全ての大学から回答あり。（大学院大学を除く。）

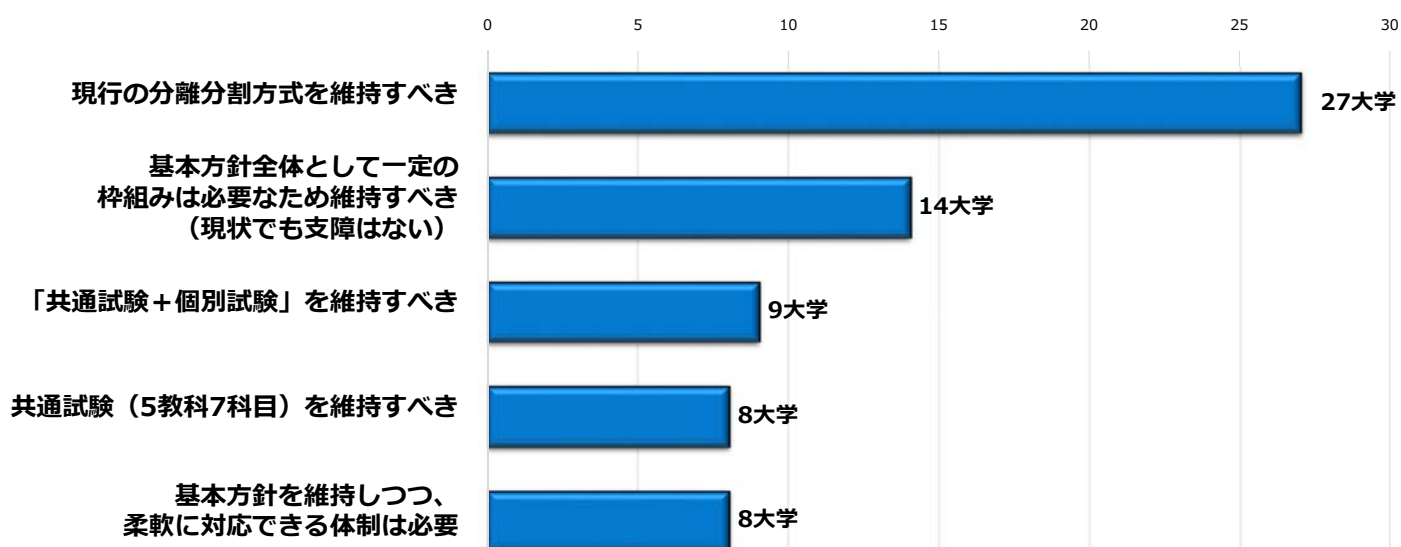
1. 国立大学協会の基本方針について

国立大学協会の基本方針について



1. 国立大学協会の基本方針について

基本方針を維持すべき（主な意見）



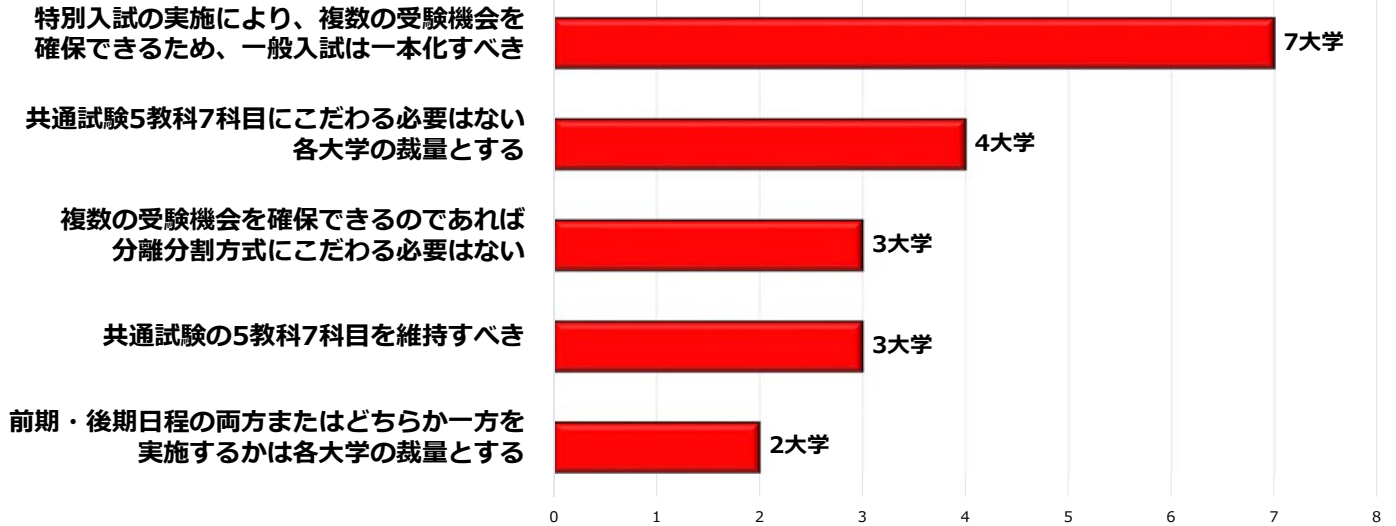
1. 国立大学協会の基本方針について

ア. 基本方針を **維持** すべきである（その他の意見）

- 入試日程の統一的基準は必要。
- 多面的・総合的選抜を実施することにより、特に一般入試において、試験実施、採点期間、合格発表から入学手続きまでの日程が確保されるか懸念される。
- 国立大学である以上、基本的な制約を受けることはやむを得ないと考える。一線を崩せば、私立大学との加熱した競争に発展することが懸念される。

1. 国立大学協会の基本方針について

基本方針を 変更 すべき（主な意見）



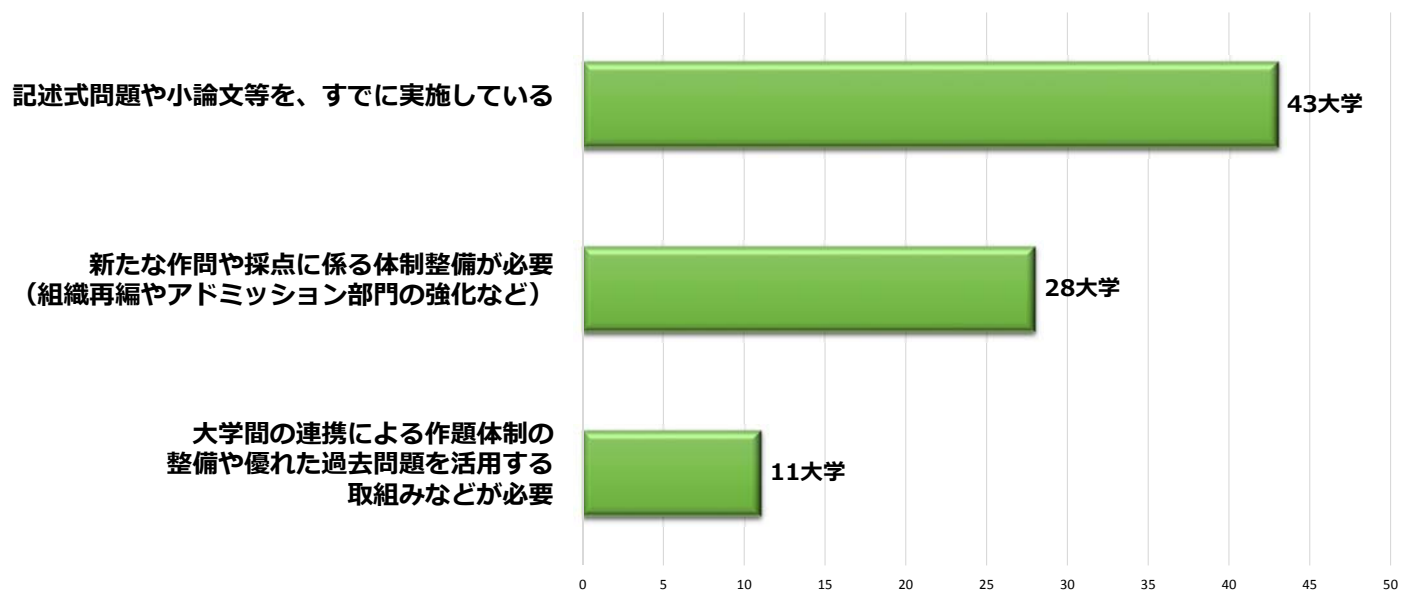
1. 国立大学協会の基本方針について

イ. 基本方針を **変更** すべきである（その他の意見）

- AO・推薦・一般入試の組み合わせで受験機会を複数回保証し、一般入試において丁寧な評価を可能にするために、現行の前期日程を繰り下げて実施する可能性も検討すべきである。
- 共通試験に記述式が導入され、現行と同時期に実施され、個別入試で筆記試験以外の選抜方法が加味されることを想定すると、物理的に分離分割を行うことは困難になることが想定される。欠員補充第2次募集の日程確保は、ほぼ不可能となる。分離分割方式を変更する場合は、現在の一般入試に相当する選抜については、すべての国立大学が同一日程で1回の選抜とするべきであろう。
- AO入試の選抜が書類選考を行う関係で早期から行われているが、このことで高等学校の教育を歪めている可能性がある。今後入試区分が廃止されるのであれば、国立大学間では、申合せにより出願時期を11月から（せめて10月中旬以降）とし、高等学校での教育の保証と高等学校での活動を適切に評価できるよう配慮が必要ではないか。

2. 「学力の3要素」を多面的・総合的に評価する選抜の在り方について

解答の自由度の高い記述式問題や小論文等を含めた作問の改善について（主な意見）



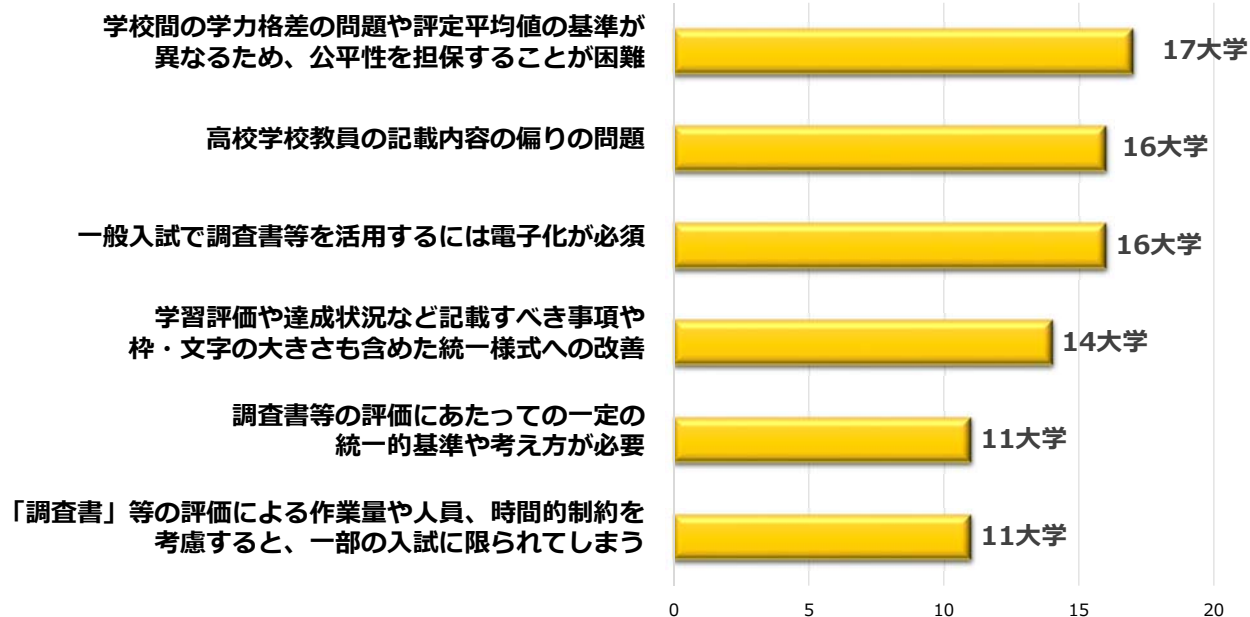
2. 「学力の3要素」を多面的・総合的に評価する選抜の在り方について

(1) 解答の自由度の高い記述式問題や小論文等を含めた作問の改善について（その他の意見）

- 作問・採点について、専門的な研究とノウハウの蓄積を図る専門的スタッフの養成は急務であり十分な予算措置の実施が不可欠である。
- 記述式問題の答案を正確に評価するために、作問時にその答案を評価するためのルーブリックを作成する取組みを行っている。
- 今後、定期的に大学が出題する試験問題の内容、難易度、適切さ及び答案方式等について、高校（教員・団体）から意見を得ることも必要となる。
- 解答自由度の高い問題の作問、採点スキル向上については、統一的な基準や方針を設定し、FDを行うことが望まれるが、その機能は一大学では困難な部分があるため、大学入試センターが改組された新しいセンターがその役割を担うことが望まれる。

2. 「学力の3要素」を多面的・総合的に評価する選抜の在り方について

「調査書」や「学修計画書」などの資料の積極的な活用の在り方について（主な意見）



2. 「学力の3要素」を多面的・総合的に評価する選抜の在り方について

(2) 「調査書」や「学修計画書」などの資料の積極的な活用の在り方について（その他の意見）

- 「調査書」等の記載内容の根拠書類をどこまで求めるのかが課題である。
- 調査書の作成や生徒の学修計画書作成の指導は、高等学校教員にとって過大な負担となることが懸念される。
- 既卒者への対応も考慮するため、見直し後の新たな調査書の活用は、推薦入試やAO入試から段階的とし、並行して一般入試での活用を検討していく必要がある。
- 試験問題の採点業務に加え、「調査書」等々を評価する教員を確保できるか、協力が得られるかなど課題が多い。

3. その他の意見

【主な意見】

「大学受験希望者学力評価テスト（仮称）」について

- 各大学における入学者選抜方法の多様化に伴って、従前とは比べものにならないほどの時間と労力が求められることを勘案すると、各大学には新テストの記述式問題の採点業務を行う余力はない。
- 現行の大学入試センター試験におけるマーク式問題でも思考力を試す問題も出題されており、多くの国立大学で記述式問題の入試を実施しているため、新テストに無理に記述式問題を導入する必要はなく、マーク式問題で記述式問題と同等な問題の出題を検討する方がよい。

定員管理について

- 各試験（一般・推薦・AO）の募集定員の自由化を求める。
- 多面的・総合的な評価による丁寧な入試が実施されることにより、入学定員を確保できるかが疑問である。
- 新テスト導入による成績提供方法（点数によらない段階評価）によっては、合否ラインの設定が困難になることが予測され、定員超過や未充足の懸念がある。定員管理の在り方について検討を要する。
- グローバル化推進のために留学生増を推進している一方で、留学生も定員内にカウントされていることから、少なくとも留学生に関しては抑制比率の外としてカウントするよう改善する必要がある。

3. その他の意見

【主な意見】

入試区分・時期について

- 新テストの導入にあわせて「一般入試」「特別入試」の区分の見直しを行うことは、受験生に不安を与えることになりかねないので避けることが望ましい。
- 選抜方法ごと（面接を含む方法は8月以降、推薦書の提出を含む方法は11月以降、教科・科目のテストを含む方法は2月以降）の実施時期に関する新ルールについては、早く決めてほしい。

その他

- 文部科学省は平成29年度初頭を目途に、新テストの実施方針及び大学入学者選抜実施要項の見直しに係る予告を行うとしているが、国大協から同省に対し、それらの案を早期に提示するよう働きかけていただきたい。
- 新たな国大協の基本方針においては、各大学の入学者選抜を一律に「学力の3要素」を多面的・総合的に評価する選抜に転換するのではなく、各大学がアドミッション・ポリシーを踏まえ、様々な入試を組み合わせる中で改革を推進するという点を記載いただきたい。
- 国大協において、文部科学省と連携の上、情報提供いただければ個別大学の入試改革などに的確に反映できると考える。
- 受験生の過重な負担、高等学校現場における無理なカリキュラム制度設計とならないような制度設計が重要であるため、高校側との情報交換や実態把握に努める必要がある。

平成22年度以降の国立大学の入学者選抜制度の概要
—「国立大学協会の基本方針（平成19年11月5日総会決定）」より—

1. 共通試験と個別学力試験について

国立大学は共通に、その理念と目的の達成のために、単に競争的入学試験に合格できる資質と能力をもつのみならず、高等学校等において基礎的教科・科目を普遍的に履修するなど、大学における総合的な教養教育や基礎教育を受け、さらに進んで先端的学術分野の成果を修得しうる学生を求めている。このため、一般学力選抜においては、第一次試験として高等学校等における基礎的教科・科目についての学習の達成度を測る共通試験（5教科7科目。大学入試センター試験）を課し、各国立大学はそれぞれのアドミッション・ポリシーに基づく第二次試験において個別学力試験を実施している。

なお、学力試験によって測ることのできない能力や個性などを見るため、論文や面接、または総合問題などを課すこともある。

2. 分離分割方式について

現在の各国立大学の個別学力試験は、前期日程試験（2月25日から）と後期日程試験（3月12日以降）に分離し、募集人員を前期日程試験と後期日程試験に分割している。

この分離分割方式は、受験機会複数化の実現を目的として導入された連続方式の問題点を克服するとともに、旧Ⅰ期校・Ⅱ期校制が抱えていた弊害の再現を避けた制度であり、また、選抜方式の多様化や評価尺度の多元化を実現するため、国立大学の入学者選抜制度がもつ公共的性格を踏まえて構築した制度である。

なお、分割単位や分割比率等に関しては、下記の「弾力化措置」を実施している。

- ・募集人員の分割を行う単位は、募集単位にかかわらず原則学部とする。
- ・募集人員の分割は、各国立大学の裁量で弾力的に実施する。
- ・後期日程試験に募集人員の多数を置くことも可能とする。
- ・分割比率の少ない日程の募集人員に推薦入学・AO入試などを含めることについては、これを妨げない。

3. その他

各国立大学の自主的な取組みによって、一般学力試験によっては見ることのできない能力や個性などを測り、有為な人材を求めるため、推薦入試、AO入試のほか、社会人、帰国子女 及び 外国人留学生を対象とした多様で個性的な入試を実施している。